



# シェイクハンド

第32号  
H23.5

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!

## 平成24年度 介護・医療保険同時改定に向けての動向

静岡県訪問看護ステーション協議会 副会長 上野 桂子

東日本大震災で、お亡くなりになられた方々に心より哀悼の意を表しますとともに、被災された多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。

被災を受け、家族を失い、家も失った方々の中には私たちの仲間の訪問看護師さんもおられます。でも前向きに在宅の利用者さんを第一にと訪問し、ステーションごと流された管理者の方は、新しい店舗を借り事業再開しておりました。（福島・岩手の視察から）エールを送りたいと思います。

今回は、報酬改定についての依頼でしたが、東日本大震災の影響もあり審議会や会議等がストップされ、これから、介護給付費分科会や、中医協等で議論されてくるのではないかと思います。

診療報酬改定は2年ごと、介護報酬改定は3年ごとの改定で、平成18年の同時改定では、在宅重視の観点から特に訪問看護は、マイナス改定の中追い風を受けました。診療報酬改定の中では医療機関の7対1の問題もありましたが在宅療養支援診療所の創設、介護保険では、療養通所介護や施設内の「重度化対応加算」の設置に伴い訪問看護ステーションが施設と契約し看護を提供するシステムや、ターミナル加算の算定要件の緩和等々がありました。しかし、訪問看護は医療保険と介護保険の双方にまたがってサービスを提供しており、良い面もありますが、非常に複雑な面もあります。全国の訪問看護ステーションを取り巻く状況は厳しく小規模事業所が大半を占め、人員不足もありステーション数も伸び悩んでいる実態があります。24年度の同時改定に向けてどのように政策提言をしていくのか、訪問看護の現状をしっかりと把握する必要があるのではないかと思います。一方で高齢人口の増加と多死時代を迎えるための国の施策についてのアンテナを高くしておく必要もあります。

介護保険制度では「介護サービスの基盤強化のための介護保険法等の一部を改正する法律案」の中で、高齢者が地域で自立した生活を営めるよう、医療、介護、

予防、住まい、生活支援サービスが切れ目なく提供される「地域包括ケアシステム」の実現に向けた取り組みを進める。とされています。

地域包括ケアシステムを実現するための取り組みとして

### 1 医療と介護の連携強化等

- 医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスが連携した要介護者等への包括的な支援（地域包括ケア）の推進
- 地域包括ケア実現のために、日常生活圏域ごとに地域ニーズを的確に把握した事業計画を策定
- 単身・重度の要介護者等に対応できるよう、24時間対応の定期巡回・随時対応型サービスや複合型サービスを創設
- 保険者判断による予防給付と生活支援サービスの総合化
- 介護療養病床の廃止期限の猶予

### 2 高齢者の住まいの整備や施設サービスの充実

### 3 認知症対策

### 4 保険者が果たすべき役割の強化

### 5 介護人材の確保とサービスの質の向上

### 6 介護保険料の急激な上昇の緩和

などがあげられており、特に訪問看護に関係するところは、24時間対応の巡回サービス（看護と介護の連携）や、小規模多機能居宅介護と訪問看護などと、複数の居宅サービスや地域密着サービスを組み合わせて提供する複合型事業所の創設などがあるようです。一方で介護福祉士等による「医療的ケア」が記されていることから訪問看護師としての在り方も原点に戻って考え必要があると私自身は思っています。

一方22年度の医療保険の改定では、重点課題と4つの視点が挙げられ、視点Ⅲ「医療と介護の機能分化と連携の推進を通じて、質が高く効率的な医療を実現する視点」のⅢ－4として、訪問看護の推進について・患者のニーズに応じた訪問看護の推進・乳幼児等へ



の訪問看護の推進・訪問看護におけるターミナルケアに関わる評価の見直し・患者の状態に応じた訪問看護の充実が挙げられ評価されました。

しかし、先に述べたように訪問看護は医療保険と介護保険の双方にまたがっているためそれぞれの保険の算定要件が異なることにより、制度が非常に複雑で従事する訪問看護師や、ケアマネジャーも理解するまで時間がかかり、利用者や家族にとって分かりにくくなっている現状もあります。そのことが訪問看護の利用が伸び悩んでいる一因とも考えられます。国民にわかりやすくかつ訪問看護サービスの体制整備のためにも今回の同時改定においては、両保険の制度上・報酬上の齟齬を見直してわかりやすくしていくための要望が必要です。

現状を簡単にまとめると

- ①二つの保険の対象がわかりにくく複雑であること  
・制度上やむを得ない部分もありますが、対象者の年令や、状態像、病名によって使う保険が異なる。
- ②二つの保険の報酬体系や加算の要件・金額などの齟齬がありわかりにくく複雑になっていること（・報酬体系と算定要件に微妙な相違点が多い。例えば・加算の要件や報酬額に微妙に相違点があること）
- ③加算の表現が違うこと（例えば、緊急時加算と24時間対応・体制加算や特別管理加算と重傷者管理加算）

等々、皆様が日頃ご苦労されていることを、今回は少しでも改善できないかと訪問看護事業協会では検討致しているところです。いづれにしても、これからの中医協・介護給付費分科会の情報をいち早くキャッチし皆様に情報提供させていただきたいと思います。

## 各支部研修会報告

### ●東部支部研修会報告

東部支部 手老美智子

- 1、テーマ：川村佐和子先生から学ぶ

### 神経難病の訪問看護の役割

- 2、内 容：意見交換会  
3、開催日：平成23年1月23日(日) 16:45~18:00  
4、会 場：サンウェルぬまづ  
5、参加者：20名

東部保健所主催の研修会終了後、川村佐和子先生を迎えて神経難病の利用者への訪問について今後の問題点を話し合いました。

研修会の事例においてヘルパーが吸引行為を行っていることに対して、先生の方から現在、実施されている「介護職員によるたんの吸引等の試行事業」について説明がありました。今後はこの事業が正規化されると介護職員でも50時間の研修だけでクリアして、吸引行為が行えることとなり、保助看法における『診療の補助』が崩れてしまう可能性が高いとの提議がありました。看護は医療安全を一番に考えている職業であり、ヘルパーの行う吸引はどこまでそれが成し遂げられるか疑問があるとのことでした。

現在の訪問看護ステーションは小規模の所が多く、こうした吸引を必要として在宅復帰する利用者に対して24時間の支援体制を組んで行くにはステーション同士の協力が重要不可欠となります。先生からも各ステーションが連携しながら看護の強みを見せていき、行政へも自分達から訴えかけていく必要があるとお話がありました。

### ●中部支部研修会報告

中部支部 谷崎 恵子

- 1、テーマ：市民公開講座 シンポジウム

### 老いをどう生きるか

- 2、内 容：1 基調講演 大田仁史 先生  
在宅における終末期  
リハビリテーションとケア  
2 シンポジウム  
3、開催日：平成23年3月12日  
4、会 場：静岡市女性会館 アイセル21

中部支部は支部研修と県の支援事業をかねて、「老いをどう生きるか」というテーマの下に市民公開講座を予定しましたが、3月11日の東日本大震災の発生により、県担当者と相談の上中止と致しました。

東日本大震災において被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

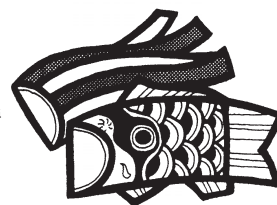
(研修委員 谷崎恵子)

### 追記

残念ながら突然の大震災により、苦渋の選択で中止せざるを得なかったと伺っています。

中止の連絡にも役員の方がご苦労されたこととお察しします。

この講座につきましては、平成23年度に別の形で改めて計画されるようですので、皆様ご参加下さい。





西部支部 飯田美保子

力すると共に、今後の災害対策について、多くの教訓を無駄にせず、活かして行く事が大切と考えます。

# 1、テーマ：「東海地震の被害と暮らしの中の減災対策」 ～防災のススメ～

- 2、内 容：講義、グループワーク
- 3、開催日：平成23年3月5日
- 4、会 場：浜松市福祉交流センター
- 5、参加者：18名

3月5日浜松市福祉交流センターにおいて、静岡県危機管理部危機情報課 勝岡聖子氏をお迎えして、表記の研修が行われました。

東海地震は、昭和51年に、東海沖を震源域とする大地震が近くおこるとして発表されました。それから30年以上経ちましたが、未だに東海地震は起きていません。しかし、全国では大きな地震が起きています。

1995年には阪神淡路大震災が起りました。多くの家屋が破壊され、多くの人命が失われました。その時の被害から東海地震の際に被害を少しでも減らす為にはどうするかを考える研修でした。阪神淡路大震災の際、地震発生から15分以内に犠牲者の9割が亡くなっているということがあり、家庭内で被害を出さないと言う事で、住宅の耐震化や、家具の固定などが必要と言われ、他には津波での大きな被害も予想されています。

静岡県より、地震の被害想定が出されていますが、突然の発災では、救出、救助、医療救護活動にも大きな支障が生じると想定されています。

その為にも、自助、共助の強化の取り組みが必要となります。災害は何時起こるかわからないという事を念頭に、それまでの災害を教訓として必要な備えや対策を考えて行かないといけません。

前半の講義の後、グループに分かれ、クロスノートという方法で、阪神淡路大震災の時に実際に起こった事例から、その時どういう行動を起こすかを短時間で判断するゲームをしました。例えば「自分が消防士だとして、火災現場へ出動中、近くに火事を発見、住民から消火を要請されたが、どちらを優先するか。」という事例があり、すぐにイエス、ノーの判断をします。

その後それぞれの意見もグループで考えます。正しい意見は、ここでは示されません。色々な対処方法を考える事ができます。前もって様々な場面を想定した解決方法を多く考えて置く事もいざという時のヒントになるかもしれません。

この研修のすぐ後に、東北関東大震災が起り、多くの人命が失われました。私達は、その復興に協

## 静岡訪問看護ステーション協議会西部支部 研修会アンケート集計

### 1. あなたの看護経験年数と訪問看護経験年数は？ 看護職経験年数

1～5年 (2人)	6～10年 (0人)	11～15年 (2人)
16～20年 (1人)	21～25年 (7人)	26～30年 (0人)
31～35年 (2人)	36年以上 (2人)	
他OTで6年の方 (1人)		
計18人		

### 2. 本日の研修 「東海地震の被害と暮らしの中の減災対策～防災のススメ～」について

#### (ア) 該当するところに○印をお付け下さい

- ・大変参考になった。(8人)
- ・やや参考になった。(7人)
- ・参考になった。(1人)
- ・あまり参考にならなかった。(0人)
- ・参考にならなかった。(0人) 無回答 (2人)

#### (イ) よろしかったら、特に参考になった点を簡単に書き下さい。

記載なし。

### 3. 本日の研修参加動機について、下記の中で該当するものに○印をお付け下さい。(複数回答可)

- 研修会のテーマに興味があった。(15人)
- 講師に興味があった。(0人)
- 上司に勧められた。(4人)
- 同僚、友人に進められた。(1人)
- その他 (0人)

### 4. 西部支部研修会についてご意見がありましたら書き下さい。

記載なし。







# ステーション紹介

**東部**

## 訪問看護ステーションはまゆう

樫村 薫

こんにちは、訪問看護ステーションはまゆうです。当事業所は平成7年に医療法人の2つ目のステーションとして開設されました。沼津市とは山が繋がっているのみの静かな田園地区に位置しています。「はまゆう」とは沼津市の花で、海岸沿いの砂地に生息しています。初夏に白い繊細な花が咲きますが、茎はとても太く海からの強い風にもしっかりと根付いて倒れないとても強い花です。優しそうなこの名称がとても気に入っています。そして、当事業所には「はまゆう」の花のように優しくたくましいスタッフがそろっています。

市花の名を頂いた為、沼津市内には「はまゆう」という名称の店舗や施設が大変多く、中には宿泊施設等もあります。学生さんが実習初日に「今、はまゆう

前というバス停に居るんですけど…」とステーションとは全く離れた場所から連絡をしてきて、ステーションの名前がバス停になっていると思っている学生さんに驚かれることもありました。

常勤看護師3名、非常勤看護師3名、事務職員1名の小規模のステーションですが、「居宅介護支援事業」を兼務し周囲の山々を越えての遠距離の訪問も提供しています。利用者は生後2ヶ月から最高齢105歳と学ばせて頂くことが多々あります。

利用者とその家族の生活スタイルや意見を尊重し、謙虚さと誇りを忘れず訪問看護師としての役割を果たしていきたいと思っています。

次は「訪問看護ステーションなかいず」さんです。



**中部**

## 島田市訪問看護ステーション

仲田 千津子

こんにちは、「島田市訪問看護ステーション」です。東日本大震災から約1ヶ月が過ぎ、被災された方々のご苦しみはいかばかりかと本当に心が痛みます。自らも被災者でありながら、地域の住民のために、働かれる医療職、公務員の方々には頭が下がります。東海地震がさげばれてから約33年、災害対応マニュアルも作成されていますが、実際の災害に遭遇した時の具体的な対策を職員一同で再検討していかなければと考えています。

さて、島田市は大井川をはさんで位置し、木材、茶、みかん等を主産業とし、高齢化率が25%と進んだ地域です。島田市は、約30年前から、嘱託の看護師さんを雇用し、在宅療養者の支援をし、その歴史の中で、H9年に訪問看護ステーションを立ち上げ

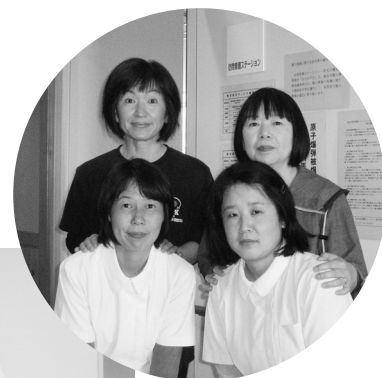
ました。公設公営の立場から、民間のステーションが立ち上がるまでの使命ではありますが、慢性の看護師不足により、新設ステーションが増えない状況にあります。

ステーション立ち上げから早14年、勤務している看護師は、当時からの古参が多く、皆ベテランぞろいです。開業医さんから、「市も高齢化だが、ステーションも高齢化で今後が危ぶまれるね。」と陰口を叩かれる始末。若い看護師さん確保に努め、平均年齢を押し下げようとがんばっています。しかし、ご利用者様からは、「若いヘルパーさんより昔の話がよくわかる看護師さんの方が安心するよ。」とよく言われます。ご利用者様が口ずさむ歌と一緒に歌えるのは、ベテラン看護師。昼休みに昔話や昔の演



歌を歌ったりして、若い看護師さんと年齢の溝を埋めるよう？和気あいあいと楽しく働いています。また、私達の経験を生かし、ご利用者様のスローテンポに合わせ、ゆっくりケアし、じっくりお話をお聞きし、ご家族を含めて信頼関係を築くよう努力しています。その結果として、訪問看護のご利用者様は生涯を在宅で過ごすことができると自負しています。今後は、市内3箇所のステーションと共同して、難病等複数回の訪問が必要な方達への在宅支援や、地域住民の方が安心して在宅療養できる環境づくりに貢献していきたいと考えています。

次は「訪問看護ステーションふじえだ」さんです。



## 西部

## きくがわ訪問看護ステーション

西田 真澄

私達「きくがわ訪問看護ステーション」は「お茶のまち菊川」の中心に位置しています。

JR菊川駅から徒歩5分、東名菊川インターから車で北へ5分、菊川市総合福祉センター「プラザけやき」内で菊川市社会福祉協議会の介護保険事業所として平成12年スタートしました。現在は常勤2名、非常勤4名のスタッフで活動しています。

社協の基本理念である「安心していきいき暮らせるまちづくり」を念頭に置き、「皆様に満足して頂ける仕事をするをモットーに24時間体制で在宅療養者、ご家族を支援します。」をスローガンとしています。

良い仕事、満足してもらえる仕事をするために重要な事は、信頼関係だと思っています。利用者様、ご家族との信頼関係はもちろん、スタッフ間の信頼関係、

医療機関、他の関連機関との連携があつてこそ、全てが整って始めて良い仕事、満足して頂ける仕事ができると思っています。

私自身ケアマネージャー、デイサービスの事務を経て、訪問看護の実務経験は3年が過ぎたところです。今までの経験を活かし、利用者側の立場に立ってサービスの提供ができればと常々思っています。そして、スタッフが働きやすい職場環境、

明るい雰囲気づくりをめざしています。

在宅で安心して暮らしたい方、人生の最期を住み慣れた我が家で迎えたいと願う方、ご家族を支えていくために、スタッフ一同、安心と笑顔を届ける気持ちで頑張っています。

次は「ウェルライフ地域リハビリテーション・看護センター」さんです。







## 利用者家族からみた訪問看護のイメージ

沼津市 伊藤 眞由美

母が脳腫瘍膠芽腫に侵され、陽子線治療ののち、2008年12月より2010年2月迄の1年3ヶ月間在宅介護でお世話になりました。

当時私たち家族は、完治は無いことを告げられ、治療後の選択を迫られていました。母の「家に帰りたい！」の希望を叶えるべく、在宅介護を選択しました。ケアマネージャーさんを通して訪問看護ステーション千本さんに訪問看護を計画していただきました。介護度も当初要介護3から病状進行とともに要介護4になり、ベッドでの寝たきり状態になっていました。

訪問看護をお願いした当時を振り返ってみると、多くの事を学ばせて頂きました。1年3ヶ月間には、病状の変化と共に、いくつもの分岐点にあたり、その時点での最善の選択を家族と共に考え、母にとって何が一番いいのかを選択していきました。何もかもがわからない手探り状態の中、チームになって支えてくれました。

訪問看護に来ていただく看護師さんは、日々違います。事前に引継ぎ（伝達）がされており、いつも母に笑顔で声をかけながら処置をしていただきました。週2回から3回の1日1時間（亡くなるひと月前からはほとんど毎日）来て頂ける時間は家族も精神的に安心できる時間でした。

しばしば家族は期待が強すぎて、母に負担をかけていた時もありました。もっと頑張ってリハビリをやらないと、とあせる私に、本人は「一生懸命やっているのよ！やろうと思っても出来ないのは病気がさせていることよ。」と出来ない現実を教えてくれました。

また、尿管がつまり交換頻度が増し、これ以上は継続困難な事態には、話し合いを何回もし、オムツにしましょうとなった時、オムツなんて、元気な時の母がもっとも嫌がっていたと思うととても辛かったです。そんな時、「心配しないで！今は良いパットがあつてね、負担も減らせるし、肌にも改良されているから」と私の気持ちも考えて、まずは本人が楽になるよう考えましょうと導いてくれました。

最期の選択は、在宅で看取りを決めた時です。在宅で看取りたい思いと死に立ち会った事のない家族が看取れるかの不安な気持ちの中、決心がついたのは訪問看護さんの「大丈夫よ！」の一言でした。

在宅介護をする家族にとっては、訪問看護は患者家族に寄り添ってくれる頼れる存在です。多くの人に訪問看護を知ってもらい、ためらっている家族の方には、助けてもらう事も大切だという事を伝えたいです。お世話になった訪問看護の皆さん、本当にありがとうございました。





# 訪問看護師就業セミナー実施報告

事務局 鈴木 恵子

この事業は訪問看護支援事業として、訪問看護師確保のために静岡県訪問看護ステーション協議会が初めて取り組んだ事業です。県民だよりや市町の広報に加え、会員の皆様のご協力のお陰で、52名（延べ118名）の参加がありました。

参加者は、退職して間もない人から、最長19年のブランクの人までとブランクの期間はいろいろでした。また、現在病院等に勤務している人の参加も18名ありました。

東部・中部・西部の3地区で、平日と土曜日の2コース、訪問看護ステーションでの実習を含む延べ18日間の開催でした。

平成23年3月末現在の就業状況は、訪問看護ステーションへ9名が就職をしました。その他として病院へ1名が就職をしています。この1名は訪問看護ステーションでの常勤を希望しましたが、幼児がいるため携帯当番はできないという理由で夜勤免除の病院への就職となりました。残念な結果です。訪問看護に関心のある人を一人でも多く就職に繋げるためには、多様な雇用形態を検討する必要があるのではないかと感じました。

就業セミナーへの参加の動機は、「以前より訪問看護に興味があったので参加」が最も多く、次いで「再就職を考えているため、いろいろ勉強したいので参加」でした。

内容については、訪問看護入門や訪問看護師の役割は100%の人が理解でき、訪問看護へ再就職した看護師の体験談は、96.5%の人が参考になったと回答しています。「在宅ケアの生の声が聞けて良かった」「訪問看護に対する不安が大きかったが得るものも多くあることがわかり、大変良かった」「訪問看護を始めるにあたっては、誰も皆不安をもったりしているのがわかり、少し安心した」という声が聞かれました。中でも「子供の手が離れると思うと、ぽっかり穴があいたような寂しさを感じた。でも再就職で看護は無理だと思っていた」と話したブランク12年の人は、セミナー受講後には再就職に向けて考えてみたいという気持ちになり、訪問看護ステーションへの就職につながっています。

「病院の三交代で、こんなつながりができるか。訪看の素晴らしさを知った」「究極の看護だと思う。目指したものに出会えた感じがする」という感想や就業者数から、今回のセミナーの目的は十分達成で

きたと思っています。

平成24年度は、静岡県の事業として継続します。一人でも多くの訪問看護師の仲間が増えるように、引き続きご協力をよろしくお願い致します。

## 東 部



## 中 部



## 西 部

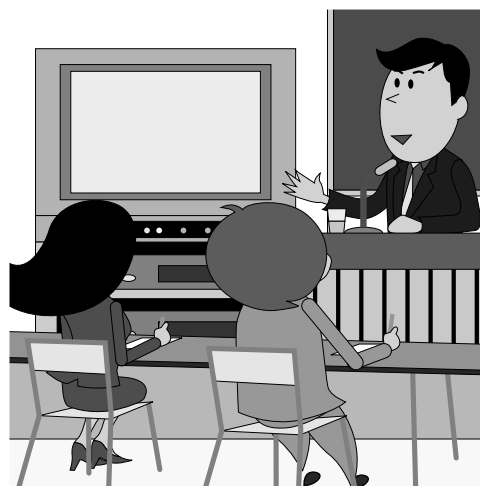




## 平成23年度 総会・研修会開催について

通常総会・研修会を下記の内容にて開催致します。今回は、順天堂静岡病院・聖隷三方原病院・静岡富士病院と静岡に縁の多い、岡原仁志先生を講師にお招きします。パッチ・アダムス氏に共感し、山口県周防大島町で、愛とユーモアを取り入れた患者のための医療活動に取り組んでいる先生です。皆様のご出席をよろしくお願い致します。

開催日	平成23年6月18日(土)
会 場	静岡県総合社会福祉会館シズウエル 703号室 〒420-0839 静岡市葵区駿府町1-70 TEL 054-254-5221
時 間	総 会： 14:50 ～ 15:50 研修会： 16:00 ～ 18:00
研修会	「ハグとユーモアを添えた在宅緩和医療を実践して」 講師：岡原仁志氏 おげんきクリニック院長（山口県周防大島）
受講料	1,000円



### 編 集 後 記

今回の号をもちまして、現委員の3名が交代となります。

それぞれ6年、4年、1年とシェイクハンド編集に関わらせていただきました。

原稿の依頼を快く引き受けて頂き、ご協力頂いた皆様に感謝します。

次回からは新メンバーにより新たな内容で広報誌を発行して頂けることと期待します。ありがとうございました。



### シェイクハンドNo.32 2011年5月発行

発行所 静岡県訪問看護ステーション協議会  
静岡市駿河区南町14-25

Tel 054-202-1752

Fax 054-202-1753

e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 佐藤 登美

編集者 長谷川厚子(訪問看護ステーション貴布祢)西部  
小田 敏子(訪問看護ステーションマザー)中部  
手老美智子(訪問看護ステーション花時計)東部